特別支援教育の扉 №７５　　令和５年１１月１６日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝

「子どもを待てますか？」

通信№20「子どもは、間で育つ」（R4.10.3）で、授業における「間」は、子どもが自分と向き合いゆっくり考える時間、友達の考えと自分の考えをじっくり比べる時間、教師が子ども同士の考えをしっかりつなぐ時間、子どもが気持ちをすっきり切り替える時間など、大きな意味をもつと紹介しました。また、「話し方が早口の教師はいけない、子どもを待てない教師はいけない、注意ばかりしている教師はいけない」というある校長先生の言葉や、「授業での教師の役割とかけて、初めての盆栽と解きます。その心は、聞く（菊）と待つ（松）が大事です」という謎かけも紹介しました。改めて、秋菊の見頃の終わりに、授業における「待つ（間）」について考えます。

〈教師の言葉掛けが多くなる理由〉

・子どもが発問を理解できていない。（指示内容が難しい、長い、話を集中して聞けない）
・子どもがやることを分からない、見通しをもてない。（ペア学習やグループ学習のねらいが伝わっていない）
・本時の目標が高い、焦点化されていない、曖昧である。（本時で達成できる目標になっていない、ねらいでなく活動内容になっている）
・子どものできる状況づくりが用意されていない。
・教師が子どもの反応を待てずに、つい言葉を掛けてしまう。

〈改善策〉

・本時で達成できるねらいであるか吟味し、活動内容を検討・精選する。
・一人で、仲間同士で授業のポイントに気付く仕掛けを考える。（役割分担、教師の立ち位置や動線、物の配置、板書の仕方等）
・子どもの表情、動き、反応に合わせて授業の流れを修正する。
・視覚支援や補助具を活用して、一人でできる状況づくりを整える。
・常に「聞くと待ちの姿勢」を心掛ける。
・子どもとの一問一答形式ではなく、子ども同士の考えをつなぐ。
・子ども自身が本時のねらいを意識して活動できるようにする。
・子どもが自己評価できる目標設定や可能な範囲で評価の数値化を図る。
・机間指導で個々の子どもの学びを見取り評価する。（いつも必ず赤ペンを持ち歩く）
・数種類の課題を用意する、ヒントを与えるなど、いくつかのパターンを考えておく。
・大事なことを伝えるときは、全ての活動を中断してから、穏やかに静かに話す。
・子どもが授業で大事なことに、気付く、考える、読む、話す、書くようにする。

「間」の使い方は、授業の面白さであり、教師の考えや力量が試される場面でもあります。子どもが「自己実現・自己解決できる場面」を多く設定し、少ない言葉掛けで「主体的に活動する子どもの姿が見られる授業を目指しましょう。

とれたて直送便

お待たせしました、「　」の答え（通信№74の続き）

性格は顔に、生活は体型に、本音は仕草に、感情は声に、センスは服装に、美意識は爪に、清潔感は髪に、落ち着きのなさは足に表れます。それでは、子どもが変わるときは、まず「目」が変わります。次に「言葉」が変わり始めます。人はその言葉のようになっていきます。答えは一つではありませんが、２回にわたりお付き合いいただき、ありがとうございました。（🙏）